

# 未来につながる羽島づくり 事前の一手で財政安定化

## 創清会ニュース

創清会事務局  
羽島市  
江吉良町719-1



災害拠点施設として市民の命を守る新庁舎の建設

羽島の「今を変える」でスタートした松井市政。着実な公約実行により、羽島市の地域力は向上。市民第一主義の市政運営は、県内外から高い評価を受けている。  
その一方、先送りされてきた大型事業の実施は、市民の命と生活を守るため、早期な着手が必要となっている。  
厳しい財政運営が予測されるなか、事前の一手として松井市長は、財政の安定化対策の実行を表明した。

時代は平成から令和に移り、羽島市も新たな改革・発展の時を迎えた。昨年10月には、市役所新庁舎の建設工事が着工。新たな庁舎は、市民の災害拠点としての役割を果たすとともに、分散していた市役所機能を一体化し、ワンストップで市民サービスのできる施設となる。

### 積み残された行政課題に取り組み

新幹線駅周辺では、商業店舗が多数出店し、活気と賑わいが創出された。成果が心配された駅北本郷土地区画整理事業も、相乗効果によって保留地が順調に売却され、完了期が近づいた。長年、利用者の方を悩ましてきた名鉄新羽島駅にも、エレベーターが設置。新幹線駅周辺のコンパクト活用にあわしい様相となった。  
防災対策では、桑原町の長良川河川敷に防災船着場が設けられた。長良川の河川敷を

利用した緊急輸送道路や、木曾川・長良川・境川に繁茂する河畔林についても、順次、整備が進められている。  
経済の活性化対策では、松井市長就任直後に実行した法人市民税の標準税率への減税、企業誘致の推進等が功を奏し、税収の増加が実現。停滞していた、岐阜羽島インター東地区への企業誘致は、概成の状況にまで至っている。

教育環境の整備においても、小中学校施設改修、一般教室へのエアコン設置を、他自治体に先駆けて完了。長年、放置されてきた竹鼻中学校の武道場も建設され、均衡の取れた教育設備が整った。  
教育関係のソフト施策としては、いじめ防止条例の制定、義務教育学校としての桑原学園の創設、産・官・学による情報教育の推進等に注力。教育関係全体として、外部機関からも高い評価を受けている。

### 行財政改革を断行

#### 大型事業を計画的実施

一方、市政には懸念されていたながら、効果的な措置や対応を先送りしてきた事業が山積している。また、何ら検証すらされてこなかった重要事業もある。混迷化した状況を打破し、施設建設用地を決定した次期広域ごみ処理施設建設事業。市役所庁舎建て替え、市民病院の経営改善、不二羽島文化センターの大規模改修。コミュニティセンターや南部学校給食センター他の老朽化した施設改修等、他市町に比べても対応

が必要なる事業が多々ある。  
まさに、羽島市にとっては、将来推計に基づく既存の道路・水路を含めた、健全な社会資本（公共施設）の計画的整備が喫緊の課題となっている。

行財政改革の断行に、一時の遅れも許されない。公平・公正な税金の配分を履行し、より一層、透明性の高い市政運営を図らなければならない。  
松井市長は「市民の方々は、これまで通りの確かな情報を発信し、市政の歩みを着実に進め、将来に持続可能な市政運営に努めます」と語る。

【安定化対策の内容】  
①市の貯金といえる「財政調整基金」残高の一定水準確保。  
②市民サービスをを行う際の受益者負担の適正化。  
③職員給料等の削減。  
④事業の選択と集中による建設地方債発行額の抑制。



市民説明会を実施

# 創清会日帰り旅行 今年も伊勢へ 親睦深める

12月7日(土)、第3回創清会(松井さとし後援会)日帰り旅行を実施。市内外から、520人の方々が参加されました。

松井市長は、バス13台に分乗された参加者と、国宝・高田本山専修寺、伊勢神宮(内宮)に向かいました。市長は、例年通り13台に順次乗り込み、市政の重要課題を報告。参加された方々は、市長の話に熱心に耳を傾け、更なる支援の気持ちを新たにされました。今回の旅行も成功裏に終わり、改めて企画・運営に携わった創清会役員の皆さんをはじめ、関係者の方々に厚く、お礼を申し上げます。



総務省が公表している「類似団体別職員数の状況」によると、羽島市役所は人口1万人当たり職員数(一般行政)が33・86人です。同規模の自治体と比較しても、全国で最も職員数が少ない自治体に位置づけられています。

このような状況下、私が市長就任時から掲げている「市民第一主義」の市政運営を推進するためには、限られた人材を有効に活用することが必要でした。

そこで、職員が「チーム羽島市役所」となり、一丸となって多くの先送りされてきた行政課題に取り組んでいくことを呼び掛けてきました。

## 市民第一主義を推進

# 「チーム羽島市役所」



羽島市長  
松井 聡

毎日フォーラム(毎日新聞出版)2019年12月号に掲載された寄稿文を紹介します。(抜粋)

私は、日ごろから職員に対し「行政課題について傍観者ではなく、所管外の業務に関しても組織横断的な視点で対応してほしい」と求めています。その結果、お役所的体質を打破するような新たな事務・事業がポトムアップで提案されるようになりました。

この機運が、「市民第一主義」の推進、ひいては市民サービスの向上につながるものと確信しています。

(中略)  
職員採用では、独自の取り組みを行っています。一般行政職の採用にあたっては、試験区分等を詳細に設定。高校卒業程度の技術系職員、スポーツ・文化・芸術等で優れた成果を収めた人材の採用を進めています。また、今年度は職員の仕事と子育ての両立を支援する「子育て時間」を創設するなど、全国最先端の制度で働き方改革にも注力しています。

## 各所で講演 地方行政を語る

### 中央大学で5回目の講義を担当

松井市長は昨年11月26日、母校中央大学多摩キャンパスを訪問。総合政策学部で「ローカルガバナンスの課題と展望」と題し、同大学生に特別講義を行った。

同特別講義は、大学からの要請で毎年講師を務め、今回で5回目。聴講生は、2年生が対象となった。後日届いた、97人の受講生からのリアクションペーパーによると「市長の政策理念と熱意ある行政運営」「財政安定化への取り組み」が最も印象に残った内容であるとの意見が多数を占めた。



### 客員教授として講義

#### 関西学院大学専門職大学院経営戦略科 ビジネススクール企業経営戦略特論

松井市長は、今年度から関西学院大学の客員教授に就任。10月5日(土)大阪梅田キャンパスで講義を行った。

受講生は、弁護士、医師、国の職員、県・市の職員、民間企業役員・管理職、中小企業経営者、等の30人。「地方小都市におけるローカルガバナンス」と題し、羽島市の取り組みを例示して説明した。2度の質疑では、受講生から熱心な意見が出され、好評を博した。



### 自由民主党岐阜県支部連合会 第9期ぎふ政治塾で講演

松井市長は、12月14日(土)自由民主党岐阜県支部連合会主催、第9期ぎふ政治塾第4回講座の講師を務めた。テーマは「安定した市政運営に向けて、事前の一手を」とした。同政治塾の講師は、今回で2回目である。

